



平成30年度「不登校を考える学習会」(第2回目)を行いました

演題：不登校支援の輪を広げよう ～新学期を迎え不安な皆さんへ～

講師：不登校生保護者の会「ぼちぼちの会」会長 木村 素也さん

平成30(2018)年8月24日(金)：小郡市人権教育啓発センター

2学期を控え、「学校が始まる」ということに対して不安をもつ子どもや保護者の気持ちを少しでも軽くできれば…といった思いで企画をしました。不登校の当事者・保護者、区長、民生児童委員、学校関係者、行政職員など39人が参加しました。

講師の木村先生は「まずは、大人が『学校に行くべき』という固定観念を捨てることも必要。不登校の子は、あまり自殺をしない。『学校を休むことはいけないこと』と思い追いつめられた子どもが自殺をする。子どもがSOSを出せる環境を大人がつくってあげることが大切です。」と話されました。

また、不登校生への対応については、「不登校生のプライドを守ることが大事。例えば『宿題はできていなくてもいいからとにかく学校においで。』ではなく、出せる態勢をつくったり、宿題を提出する際に配慮したりするなど、その子の困り感は何なのかを見とり、その困り感を1つでも取り除くことが大切です。」とも話されました。

「不登校生に限らず、子どもたちは経験が少ないので生きていく上での不安を抱えています。そんな中に、大人が『正解』を選ぼうと・選ばせようとしていませんか？子どもをコントロールしないで『今やっていることが正解だよ。』という考え方で子どもたちを見守りましょう。」と結ばれました。

子どもたちを見守るわたしたちに多くの示唆をいただいた有意義な学習会でした。

《参加者のアンケートより》



新聞で10代の子どもの自殺が減っていない、微妙に増えていると書いてありました。心が痛みます。子どもがSOSを出せるよう大人側がゆっくり話を聞く姿勢が大切だと思いました。



【講演中の 木村 素也 さん】



【講演後は悩みなどの交流を行いました。】

宿題・対人関係・学力など全部でなくてもいいので、1つでも取り除いてあげることが大切だというお話にそうだなあーと思いました。好きなものから少しずつ関係をつくっていこうと思いました。

平成30年度「不登校を考える学習会」(第2回目)アンケート

平成30年8月24日(金):小郡市人権教育啓発センター

- 先生のお話すごくためになりました。感情で言ってしまう自分(わかっている)が、なかなかできない。子どもから注意を受けることが多いので、視線をかえることの大切さを学びました。(一般)
- 聞く場所、話す場所が大事です。この学習会は、悩んでいる家族、また理解して支援したいと考えてある地域の方にとって、つながる場なので継続していけるようお願いしたいです。(行政)
- 「大人が子どもをコントロールしようとしないうこと」という言葉が心に残りました。「学校に行く価値があると思えるようになれば子どもは行く。」子どもが何かやりたいことを見つけられるのを見守っていくよう親として努力していきたいと思います。子どもと一緒に悩んでいきましょう。(保護者)
- もう少し話が聞きたかったです。また、ぜひ機会を見つけて参加したいと思います。(学校関係)
- 今回もよい話が聞けました。新聞で10代の子どもの自殺が減っていない、微妙に増えていると書いてありました。心が痛みます。子どもがSOSを出せるよう大人側がゆっくり話を聞く姿勢が大切だと思いました。(保護者)
- 前回の木村先生のお話を聞いてぜひ今回も聞きたいと思いやってきました。とても分かりやすく大変参考になりました。ありがとうございました。(保護者)
- とてもわかりやすい内容でした。学校に行っていない子どもを特別な目で見ているのは、周りと同じく親である私自身だと反省しています。(保護者)
- 今のところ不登校生との接点はないが、不登校ではない児童も同じような問題があるとのことで勉強になりました。(人権擁護委員)
- 子どもとの信頼関係、難しいことですが価値観を大事にしていきたいです。(保護者)
- 「不登校であることは部活に入っていないことと同じようなもの」という言葉がとても心に残りました。そして「家に行ってコーヒーを飲んで帰ってくる。」この2つがとても重要なのだと感じました。(学校関係)

- ・小学校教員として不安に思いながら来ている子どももいるんだということを意識してこれからは教師をしていこうと思いました。また、その不安を早めに解決できるのであれば決めつけないでその子にあう方法で不安を取り除いていきたいと思いました。(学校関係)
- ・大人(親、教師 e t c)が変わらないと子どもは変わらないと思います。(区長)
- ・子どもの心配、宿題・対人関係・学力など全部でなくてもいい、一つでも取り除いてあげることが大切だというお話にそうだなあーと思いました。好きなものから少しずつ関係をつくっていこうと思いました。(一般)
- ・全部問題を解決するものではなく、まずは一つを解決が大事ということがわかりました。(区長)
- ・とても良い話でした。子どもの自尊感情を大切にして、本人を主体に考えて子どもの不安感を除いていく取り組みをこれからしっかりと考えていきたいと思います。(行政)
- ・地域でも子どもの話が聞けたらと思います。(児童委員)
- ・児童養護施設の世界でも、個別の対応の力をつけていかないといけないと考えています。地域の方たちと情報ネットワークを築けていけたらと考えます。(児童養護施設)
- ・実際の子ども達がおかれている現状がよく理解できました。(一般)
- ・子ども達が動き出した今、先生の話聞きながらふり返ってみると考えない、選ばない、決めないは、エネルギーがないからという話に、何を聞いても「しらん、どっちでもいい、わからん、いいじゃない？」などなどまるで他人事のような返事にイライラすることがありました。これもエネルギーがないからだっただ〜と気づかされました。また、自分が選んだことへの失敗するかもしれない不安、子ども達だけではなく私自身にも多々あるな〜と思いました。この先も子ども達が「自分が選んだものを正解にする」ことができるエネルギーを蓄えていけるよう、今、できていること、頑張っていることを見守っていききたいと思います。(保護者)

